

緑豊かでゆとりと潤いのある快適な環境と美しい景観の創造をめざして

2015.3月号
通巻 第492号

日造協ニュース

Japan Landscape Contractors Association NEWS

発行：一般社団法人日本造園建設業協会 編集：広報活動部会 <http://www.jalc.or.jp>
〒113-0033 東京都文京区本郷3-15-2 本郷二村ビル4階 TEL:03-5684-0011 FAX：03-5684-0012

本号の主な内容

- 2、3面
- 【特集】第41回 全国造園デザインコンクール
審査講評 藤井英二郎審査委員長ほか
入選作品 日本造園学会会長賞 福田蒼樹さんほか
- 4面
- 【ふるさと自慢】福井県 坪川栄一郎（愛福園）
1500年の歴史を持ち生産量日本一の「越前和紙」
【緑滴】花と緑のまち・神戸
こばし りょうこ（ガーデンオーヴ、(株)中西総合ガーデン）

日造協会の方々への「日造協ニュース」は偶数月がPDF版の配信で、印刷物の発送は行っていません。会員の方々へのメールニュースへの添付、日造協ホームページに掲載をしていますので、ご活用ください。



文部科学大臣賞、特別賞受賞者と藤井委員長（最前列）をはじめ関係者で記念撮影

日造協主催 第41回

全国造園デザインコンクール

文部科学大臣賞に長野県須坂園芸高等学校

国土交通大臣賞 和田優一さん(滋賀県立湖南農業高等学校)

日造協は、第41回全国造園デザインコンクールの表彰式を2月14日、東京都千代田区麹町の弘済会館で開催。賞状の授与、受賞者による作品発表を行った。

全国造園デザインコンクールは、美しい国土と快適な生活環境の実現に欠かすことのできない造園空間のデザインと設計技術の向上を図ることを目的に日造協が主催。（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会、全国高等学校造園教育研究協議会の共催、文部科学省、国土交通省、全国農業高等学校長協会、（公社）日本造園学会、NHKの後援で、日造協の事業委員会人材育成部会が事業の実施にあたっている。

全国造園デザインコンクールは、今回で41回目を迎え、今回は、「住宅庭園部門」に一般2、大学51、高校200、「街区公園部門」に大学43、高校44、「商業施設部門」に大学8、高校32、「実習作品部門」に大学4、高校15の合わせて、399点の応募があり、入選18点、佳作10点、奨学賞22点が選ばれた。

表彰式では冒頭、主催者より藤巻司郎日造協会長があいさつ。受賞者へのお祝いとともに指導された先生方や関係者への感謝、今後のコンクールの発展と社会

第41回全国造園デザインコンクール受賞者

賞 部門	氏 名	学校名	学年
文部科学大臣賞	長野県須坂園芸高等学校		
国文大賞賞入選	住宅 和田 優一	滋賀県立湖南農業高等学校	2
造園学会会長賞入選	実習 福田 蒼樹	西日本短期大学	2
日造協会会長賞入選	住宅 澤畑ほなみ	E&Gアカデミー	1
CLA会長賞入選	住宅 鈴木菜津美	E&Gアカデミー	1
協議会会長賞入選	住宅 田中 茉優	山梨県立農林高等学校	3
協議会会長賞入選	実習 清水 大	京都府立農芸高等学校	3
入選	住宅 篠崎 裕美	E&Gアカデミー	1
入選	住宅 杉原 慧美	E&Gアカデミー	1
入選	住宅 岩尾 裕希	山口県立宇部西高等学校	3
入選	住宅 久保 舞	山梨県立農林高等学校	3
入選	住宅 政二 大樹	愛知県立猿投農林高等学校	3
入選	街区 久保 香織	千葉大学園芸学部	1
入選	街区 池田 理香	愛知県立猿投農林高等学校	2
入選	街区 石原 洸太	長野県須坂園芸高等学校	3
入選	街区 原 美波	長野県須坂園芸高等学校	3
入選	商業 香村 朋佳	愛知県立猿投農林高等学校	2
入選	商業 神林 芽泉	長野県須坂園芸高等学校	3
入選	実習 山東 佑基	滋賀県立湖南農業高等学校	3
佳作	住宅 伊藤 亮	E&Gアカデミー	1
佳作	住宅 江田かつら	中央工学校	2
佳作	住宅 渋谷 恵美	E&Gアカデミー	1
佳作	住宅 辻 京介	愛知県立猿投農林高等学校	3
佳作	住宅 中村 春香	長野県須坂園芸高等学校	2
佳作	街区 羽田帆乃加	愛知淑徳大学	3
佳作	街区 中島 瑞紀	滋賀県立八日市南高等学校	3
佳作	街区 堀澤 陽花	長野県須坂園芸高等学校	3
佳作	商業 栗林 勝太	長野県須坂園芸高等学校	3
佳作	実習 福田 昌史	鳥根県立松江農林高等学校	3

への貢献に向けた期待を述べた。

次いで、田畑淳一文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室教科調査官は、「審査会で作品を拝見し、応募者の皆さんや指導される先生方の姿が目には浮かび、今日こうして受賞者の方々に会いすることを楽しみにしてきた」と祝辞。町田誠国土交通省都市局公園緑地・景観課緑地環境室長は、「今回が2度目の審査会、表彰式への参加になるが、作品からいろいろ学ぶことがあり、自らの仕事を振り返ったり、さらに社会への発展を考えるきっかけにもなっており、皆さんのこれからのご活躍に期待したい」とお祝いの言葉を述べた。

その後、特別賞の授与、受賞者による作品発表が行われ、最後に審査委員長の藤井英二郎千葉大学園芸学部教授が講評。「今年は399点の応募があり、高校生が約7割。その多くが住宅庭園部門で200点になるが、素晴らしい作品が多かった。そして、大学生も住宅庭園において素晴らしい作品が多かった。しかし、街区公園、商業施設部門は、課題が残る。今後に期待したい。今回は41回目であり、40回の区切りで主催者である日本造園建設業協会が記念誌をまとめた。過去の作品などが収録され、大変役に立つ。また、日造協のホームページにもアーカイブが整備され、過去の作品がダウンロードでき、精度も高い。こうしたものを参考にしていきたい。過去のこのコンクール受賞者が社会の第一線で活躍されている。鯉が龍になる…。まさに、登龍門として、本コンクールが発展し、社会に役立つことを期待している」と述べた。

表彰式は、最後に受賞者と審査員等関係者での記念撮影を行い、閉会した。

（2・3面に特集）

樹林

日造協理事、(株)岐阜造園 取締役会長
小栗 勝郎



提案型企業を目指して

造園・エクステリア産業から
景観サービス産業へ

はじめに 提案型企業とは、どのような企業でしょうか。顧客に対し、有益で優れた提案を行うだけの企業でしょうか。家業でなく企業を目指すのであれば、業界のみならず、社会に対し、いかに貢献するべきかを視野に入れた展開が必要ではないでしょうか。

老舗から大企業に成長した企業も多くあります。老舗の語源は仕似（しにせ）で、「(仕)事を真(似)る」が由来です。真似るだけで、時代の変化に対応できなかった「仕似」は消滅への道を辿り、伝統を守り続けながらも変化に対応し、今日まで続いているのが「老舗」と言われています。要するに提案型企業が生き残ったということではないのでしょうか。

現状 我々業界を取巻く状況は、現状の見方をすれば、厳しく閉塞感が充満しています。しかし、大きく景観産業というカテゴリから見れば、前途洋々かもしれません。

私事ですが、当社は親会社・子会社を含め9店舗で営業をしています。しかし、全店で共通するマニュアルは、昨今よく耳にします『基本動作』しかないと思います。当社は徹底した基本動作の指導を行い、工事会社、職人だからという甘えを排除し、サービス産業の精神を早くから取り入れました。こうした変化への対応も提案型企業的一面だと思います。

営業活動は、基本の繰り返しです。奇をてらうような政策は長続きせず、最も大切にしていることは、各店の特徴を活かすことです。9店舗は立地条件、周辺客層がまったく違い、各店に合った営業展開をしています。提案型企業は顧客ニーズ、潜在意識を熟知することが最も大切なことであり、ここを間違えれば、どの様な素晴らしい提案を行っても、成果に結びつきません。

今後の展開 業界の再構築を前提とした異業種とのコラボレーションによる業界の拡大・拡張です。現市場では共倒れ状態であり、閉塞感で一杯です。健全な経営を行うには、新たな市場を創造する必要があります。製造・流通・販売、そして我々工事関連会社が、互いに胸襟を開き、将来の業界づくりを行う時期にきています。造園・エクステリア業界にとどまらず、景観サービス産業として、異業種をも巻き込んだ業界を再構築する必要があります。各地方の同業優良企業との提携やM&Aを、また異業種とのコラボレーションをさらに加速させ、将来に向けた基盤づくりを行いながら、業界や市場の拡大に力を注ぐ。官公庁やゼネコン、ハウスメーカー、デベロッパーにも提案型営業に徹し、従来の下請けではなく、大手企業との共同開発等も含め、元請体制を目指すことが、本業界を強く、大きくすることにつながるものと確信しています。

おわりに 強い企業、大きい企業が生き残るとは限りません。それは、地球の歴史から学び取ることができます。さまざまな試練に耐え、大きな変化に適応してきた生物のみが生き残り、今後もその戦いは続いていきます。

まさに冒頭に記した「老舗企業」にこそ、提案型企業としての経営を学ぶべきではないでしょうか。自分たちのものを大切に守り抜く『信念』と、時代の風、流れをいち早く感じ取る『謙虚』さ、そしてさまざまな変化に対応する『柔軟』さが必要なことは先人の教える通りであります。

最後に一日も早く本業界が時代に適応した活力ある業界として生まれ変わりますように。それを大きな夢とし、その実現に向かって邁進していきたいものです。

※景観＝景色＋環境



国土交通大臣賞 和田 優一 滋賀県立湖南農業高校

第41回全国造園デザインコンクール 審査講評 入選作品

■藤井英二郎委員長
(千葉大学園芸学部教授)

今回は昨年より約1割多い399件の応募がありました。そのうち3/4を占める高校生の部では入選者がいくつもの高校に分散し、全国的なレベルアップの兆しを感じられます。このコンクールの主催者・日本造園建設業協会が40回を記念して刊行された『全国造園デザインコンクール-40年のあゆみと作品』や協会HPで入選デザインが精度高く見られますので、是非参考にしてください。前回の高校生の街区公園には優れたデザインが多かったのですが、今回は物足りませんでした。周辺の土地利用から想定される公園の存在効果・利用効果を考え、ゾーニング・動線計画を検討し、地域の広場となる公園を提案して下さい。大学生の部では住宅庭園に優れたデザインが多く見られましたが、街区公園や商業施設は今一つでした。地域社会の特定多数、あるいは不特定多数の方が利用する空間は都市的生活のコアですので、斬新で意欲的なデザインを期待しています。

上記の『全国造園デザインコンクール-40年のあゆみと作品』をみると、歴代の入選者の中に設計・施工界で活躍されている方々や、高校・大学で教鞭を執られている方々が何人もいらっしゃることがわかります。コンクールがまさに登竜門になっているわけです。

■田畑淳一委員(文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室教科調査官)

本コンクールの41回の歴史と伝統にふさわしくどの作品にも、日ごろの学習と努力の成果があらわれており甲乙つけがたい作品ばかりでした。

今回の文部科学大臣賞は、上位入賞の多かった長野県須坂園芸高等学校としました。長年指導されてきた先生の異動で作品を仕上げるのもたいへんであったと聞いていますが、さすが学校の伝統と先輩方からの思いが息づく圧巻の作品ばかりでした。新しい指導者の下、更なる精進に期待します。

全体的には、指導者の世代交代が始まる中、学校間の競争も更に激化し、その切磋琢磨が作品の質の向上へつながるこ

とを予見させる他校の頑張りも見られました。次年度以降の他校のレベルアップに期待しています。

一方では、事務局で「全国造園デザインコンクール～40年のあゆみと作品～」を整理いただきました。ホームページでは、過去の優秀な作品を画像で見ることができます。各校での今後の指導に活かしていただければと考えます。

造園空間をデザインする際、知識や技術を身に付けていることは当然ですが、そこに暮らす人、そこを利用する人、そこを見る人など、常に人の存在を意識し心の安らぎや変容等を意識した造園でなくてはなりません。それらを考えることで素晴らしい作品が誕生していくものだと思いますし、作品を仕上げていくには自分自身がどれだけ成長しているかがポイントであると考えます。

最後に、多数の素晴らしい作品がある中で、例年、応募する高等学校に偏りが感じられます。また、せっかく応募しても応募要項に合致しない作品が多々見られます。記載漏れや縮尺違いなど生徒の単純なミスも指導者の日頃の指導の中でチェックできる場面もあると思いますので今後の改善をお願いします。

表彰式後の作品紹介では、皆さんの思いの伝わる見事なプレゼンテーションでした。自分の思いを他人へ伝えるように表現することもたいへん重要です。特に、造園デザインに関し作品としてその中に自分自身の思いを実現するという意味では日頃の学習と多彩な表現力が必要であろうと考えます。

■町田誠委員(国土交通省都市局公園緑地・景観課緑地環境室長)

第41回全国造園デザインコンクールに入選等されました皆様、おめでとうございます。今回も応募者の豊かな発想力と作庭意図を巧妙に伝える表現力を、審査をしながら楽しませて頂きました。

故郷である琵琶湖周辺地域をデザインのモチーフにした、滋賀県立湖南農業高校の和田優一さんの作品「琵琶湖周航」が、国土交通大臣賞を受賞されました。自然の恵みの豊かさや旅人を癒やす旅情溢れる地域を表現した本作品の特筆すべ



(公社)日本造園学会会長賞 福田 蒼樹 西日本短期大学

き特徴は、敷地東側に数寄屋門を配して、西側の玄関ポーチへと導かれた動線に尽きると言って良いと思います。一般的な住宅庭園の常道としては考えにくい選択肢ですが、大きな屋敷の設えとしてはあり得る、門から玄関へのアプローチが、敷地条件に制約されるなかで、主庭の中を引き回されています。凡そ5m毎に分節化され展開されるシークエンスは、琵琶湖を巡る旅さながらの緻密な空間構成です。大切な客人が庭を巡り来る姿を、和室から眺めている主の心の高揚感をも想起させるような作品です。

■加藤友規委員

((公社)日本造園学会 理事)

「日本造園学会会長賞」は、西日本短期大学の福田蒼樹さんが受賞されました。本作品は、大学キャンパス内での作庭実習の授業の中で実際に設計施工されたもので、本格的な庭園工事のプロセスが評価されました。

1mの高低差のある階段の地形を把握するために、ダンボールのモックアップを組んでチーム内でイメージ共有した点や、階段の石張りで使用する石材をキャンパス内の再利用材から面のとれたものを厳選するなど、随所に創意工夫がみられる力作でした。施工段階で生じる設計との齟齬を、現場での応用力でやり遂げた点も評価されました。

■大室徳治委員

(全国高等学校造園教育研究協議会理事長)
今回から住宅庭園部門の課題が変更さ

れ、現代の住宅事情に合わせたような内容になりましたが、課題の理解力の差が大学生と高校生の作品の違いになって表れたように思えます。

今回は、課題内容を十分に消化してチャレンジしてもらえればと思います。

大学生の作品は、細かい部分の空間処理が上手であり、作品の出来映えに大きく影響していました。

また、実習作品では、表現力が豊かで甲乙つけがたい作品が多くありました。強いて上げるならば、施工前、施工後や施工中などの写真等を効果的に取り入れてみるのも良いのではないのでしょうか。

是非、次回もたくさんの応募を期待しています。

■鈴木一志委員

(全国高等学校造園教育研究協議会副理事長)

第41回造園デザインコンクールに今年も沢山のご応募をいただき誠にありがとうございました。高等学校の参加校は30校で応募数は291点でしたが、高校生らしい斬新な発想に満ち溢れた作品が数多く寄せられていました。各学校で指導が続けられている先生方のご努力に大変感謝いたします。

しかしながら、住宅庭園部門と街区公園部門で課題変更が行われた影響か、応募規定に合わない作品が例年以上に多かったように感じました。せっかく作品自体が素晴らしいものであっても、方位やスケールが異なったもの、バースケールが記載されていないものは、予備選考



入選 篠崎 裕美 E&G アカデミー



入選 杉原 慧美 E&G アカデミー



入選 久保 香織 千葉大学



入選 岩尾 裕希 山口県立宇部西高校



入選 久保 舞 山梨県立農林高校



入選 政二 大樹 愛知県立猿投農林高校



(一社) 日本造園建設業協会会長 澤畑 ほなみ E&G アカデミー



(一社) ランドスケープコンサルタンツ協会会長賞 鈴木 菜津美 E&G アカデミー

の段階で選考から外れてしまいます。
毎年のことではありますが、最後の郵送段階の前にもう一度、図面の内容をご確認のうえご応募いただきたいと思います。

■村岡政子委員 ((一社) ランドスケープコンサルタンツ協会副会長)

毎年、コンクールの審査に参加させていただき、造園をめざす若い人々の発想力の豊かさと瑞々しい感性に出会うことが大きな楽しみになっています。

今回、(一社) ランドスケープコンサルタンツ協会会長賞を受賞された鈴木菜津美さんの住宅庭園『のびのびの庭』は、小さな子どもたちを家庭で預かる保育ママさんの住宅のお庭を描いた作品です。

円形のウッドテラスや芝生テラスが美しく納まり、子どもたちが元気に走り回り、植物にふれあうことができる楽しい庭となっています。

また、保育ママの日常機能をきちんと取り入れ表現しており、構想力とデザインセンスを感じさせる優れた作品です。

最後に、関係者の皆様の永年にわたる熱意とご努力に心から敬意を表しますとともに、次回も多数の素晴らしい作品の応募をお待ちしております。

■萩野一彦委員 ((一社) ランドスケープコンサルタンツ協会理事・技術委員長) (一社) ランドスケープコンサルタンツ協会会長賞には、399 点の全作品の中から、E & G アカデミーの鈴木菜津美さんの住宅庭園「のびのびの庭」が選ばれました。

保育ママ(家庭福祉員)と子供たちのためにデザインされた住宅庭園です。明確なコンセプトに込められた思いと、それを見事に空間デザインとして表現している点が評価されました。円を使った平面構成は、ウッドテラス、芝テラス、動線、駐車場のすべてに絡み、隙なくきれいに一つにまとめています。空間構成力の高さとともに、何度も書き直してこれに至った努力を感じました。

次回も多数の優れた作品の応募があり、このコンクールを契機に多くの若者が造園界において活躍されることを期待します。

■卯之原昇委員 ((一社) 日本造園建設業協会業務執行理事・技術委員長)

今年度の日造協会賞は、全 399 点

の作品の中から、計画・施工・利用についてももっとも優れた作品にということで、住宅庭園部門で E & G アカデミーの澤畑ほなみさんの「愛犬と過ごすいのちが輝く庭」が受賞されました。この作品は、日々愛犬と暮らす生活の中での発想をもとに、野鳥の飛来や昆虫のすみかなど動植物に配慮した、緑いっぱいの庭が計画されておりました。最近庭園も小規模傾向になってきており、本作品は施工界から見ると、楽しみながら作りたい庭の一つでありました。

毎年、沢山の作品を出展していただき、応募者、指導者の皆様に感謝すると共に、今後も多くの皆様が造園業界に入職され活躍されることを期待しております。

■風間啓秀委員 ((一社) 日本造園建設

業協会事業委員会副委員長)

第 41 回目の今年は 40 回の前年より応募総数で 39 作品多い 399 点の作品が応募され、応募課題 4 部門(住宅庭園・街区公園・商業施設・実習作品)の中では住宅庭園部門に優秀な作品が多く、今年度の日造協会賞には澤畑ほなみさんの「愛犬と過ごすいのちが輝く庭」が受賞されました。

少子高齢化の進む日本、英国ではペットとガーデニングが暮らしの質を高める重要な手段とされているとのコンセプトの元、デザインされた作品です。

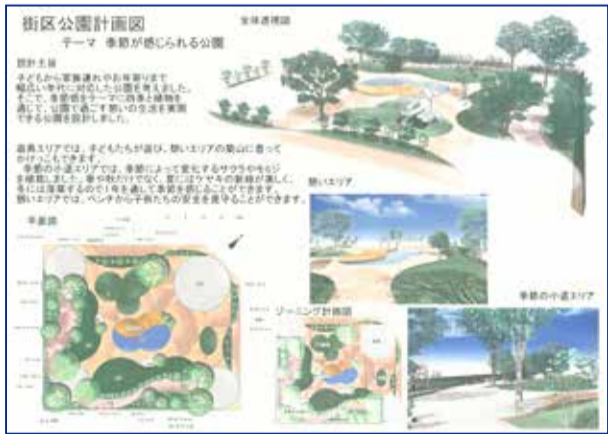
前年より多い応募作品があった事は次の 10 年第 50 回に向け良いスタートが切れました。次回も今年以上のご応募よろしくお願い致します。



全国高等学校造園教育研究協会会長賞 田中 茉優 山梨県立農林高校



全国高等学校造園教育研究協会会長賞 清水 大 京都府立農芸高校



入選 池田 里香 愛知県立猿投農林高校



入選 石原 洸太 長野県須坂園芸高校



入選 原 美波 長野県須坂園芸高校



入選 神林 芽泉 長野県須坂園芸高校



入選 香村 朋佳 愛知県立猿投農林高校



入選 山東 佑基 滋賀県立湖南農業高校

ふるさと自慢

生産量日本一の「越前和紙」

福井県 1500年の歴史を持ち

あまり知られていない、ふるさとの自慢…。そういう趣旨なら、福井にはとてもタイムリーなネタがあります。それは『和紙』です。

昨年、日本の手漉き和紙技術がユネスコの無形文化遺産として登録されました。

島根の石州半紙、岐阜の本美濃紙、埼玉の細川紙が登録される中、1500年の歴史を持ち、国内最大の和紙生産量を誇る我が越前和紙が、まさかの落選。

まさに「あまり知られていない、ふるさとの自慢」となっていました（もっとも、登録は保存協会等の団体が対象なので、そういった組織がなくとも産業として成り立っているという意味では、むしろ誇るべきことなのかもしれません）。

そんな越前和紙を皆さん



に知ってもらえるよう、今回は、気軽に紙漉きを体験できる施設を紹介します。

北陸自動車道、武生ICから車で約10分「越前和紙の里パピルス館」です。

スタッフの指導のもと、20～40分で和紙作りにチャレンジできます。ハガキサイズからタペストリーサイズまで大きさは様々。染料や押し花も用意されてるので、センスの見せどころです。世界でたった一枚。あなただけの和紙を作ってみてはいかがでしょうか。

和紙の里周辺には、同じく福井県の伝統工芸である打ち刃物を体験できる「タケフナイフビレッジ」もあり、家族旅行やドライブコースに最適です。

とってもマイナーな福井県ですが、根付いている文化や技術は他県に決して劣らな



紙漉き体験のようす①と「パピルス館」のポスター②



い質の高いものばかりです。是非一度、お越し下さい。

坪川栄一郎（愛福園）



花と緑のまち・神戸

こぼしりょうこ
ガーデン
中西総合ガーデング

私の暮らす「神戸」はクラシックな建物が残る文化の香り漂うとてもお洒落な街です。

神戸市では毎年3月に、旧居留地エリア・北野エリア・三宮エリア等、エリア毎に花壇管理業務（企画・立案・設計・施工・メンテナンスの一貫業務）をコンペ方式で選出しています。

このコンペが、なかなかの難関で毎年3月になると、携わっているメンバー皆泣きそうになりながら頑張っています。その頑張りがあってか2012年度より3年連続で入賞し現在は神戸の中心地である旧居留地エリアを飾花させていただいております。厳しい業務ではあるのですが、エリア毎にテーマを生み出していく作業は、神戸の街並みを創る一旦を担っているという何とも壮大な感覚がして、不思議と心地が良くなったりしています。

昨年、南フランスに行ったのですが、朝のマルシェでは新鮮な野菜が沢山並

び、そしてそれらと一緒に植物が普通に並んでいました。プロバンス地方では植物が生活と密接に関わっており、街を歩けばどの家の窓辺にも色とりどりの花が飾られています。

そして、街のいたるところに南仏の街並みとマルシェあるカフェでは必ずと言っていい程、オープンスペースがあり雨の日でも外でお茶をするのが南フランス流と地元の方に教えていただきました。

私も外での食事が大好きなので神戸の街にもオープンカフェが素敵に根付くと良いなと密かに思っています。そんな神戸でのティータイムをお洒落な花で飾り、毎日お茶を飲んで楽しい時間を過ごせたらなと思いながら本日もコンペ資料をせっせと作っています。



南仏の街並みとマルシェ



花壇

事務局の動き

【2月】

- 3(火)・総務委員会（財政・運営部会）
- 4(水)・技術委員会（調査・開発部会）
- 5(木)・運営会議
- 6(金)・沖縄国際洋蘭博覧会審査会・事業委員会（人材育成部会）
- 9(月)・総務委員会（広報活動部会）
- 11(水)・職長教育講習会（近畿総支部）～12
- 13(金)・事業委員会
- 14(土)・第41回全国造園デザインコンクール表彰式
- 15(日)・地域リーダーズ勉強会～17
- 17(火)・街路樹剪定士指導員研修会～18
- 18(水)・東北総支部・支部交流会
- 24(火)・第2回造園施工管理技術検定委員会
- 26(木)・登録造園基幹技能者講習（北海道会場）～27

【3月】

- 6(金)・登録造園基幹技能者講習委員会
- 8(日)・自民党大会特別表彰受賞
- 10(火)・総務委員会（広報活動部会）・総務委員会、財政・運営部会合同会議
- 13(金)・技術委員会（技術情報・研修部会）・技術委員会（安全部会）

- 18(水)・技術委員会（調査・開発部会）
- 24(火)・総務委員会（財政・運営部会）
- 30(月)・総支部長等会議・第2回通常理事会
- 31(火)・自民党各種団体協議会懇談会

委員会等の活動

- 技術委員会（調査・開発部会）
「（仮称）公園・緑地樹木剪定ハンドブック」と「（仮称）みどりの発生材リサイクルのガイドライン」の編集を行った。（2/4）
- 事業委員会（人材育成部会）
今年度の全国造園デザインコンクール、造園CPD、職長教育について結果報告と、来年度に向けた検討を行った。地域リーダーズの今後の活動と今後の展開や勉強会のテーマについて検討した。（2/6）
- 総務委員会（広報活動部会）
日造協ニュース2～4月号の内容等について審議した。年間掲載記事の構成について検討した。（2/9）
- 事業委員会
本部の各部会と総支部の活動状況を報告し、現状の課題について話し合った。特に昨年の建設業法改正に伴う例示の見直しにより追加された「緑地育成工事」について、今後の展開を検討した。（2/13）

年度末労働災害防止強調月間

建設業労働災害防止協会の主唱で、3月1日から3月31日まで、「建設業年度末労働災害防止強調月間」が実施されている。

年度末は、公共工事等多くの工事が竣工に向け、繁忙期となり、また、工事関係者、職種の出入りも多く、注意力が低下しやすい時期である。このため、同協会は、この時期の建設現場の安全衛生管理を徹底することを目的に同月間を展開。安全パトロールや墜落・転落災害防止対策の徹底など、企業の実情に応じ積極的な労働災害防止活動を求めている。



編集後記 休日に子どもと近所の公園へ遊びに行きました。池の中は卵を産むためのヒキガエルたちで大混雑！ 毎年これを見ると春が来たことを感じます。

楽しく学び、スムーズな授業。

生徒も

先生も



エクステリア・外構・造園教育用CADソフト

eE-CAD 10.5
Cambridge
イーキャドケンブリッジ

07 オーセブン株式会社
教師用 ケンブリッジ 検索

導入台数
550台突破

■本社：〒338-0004 埼玉県さいたま市中央区本町西 6-4-14 07デジタルスタジオ
TEL.048-840-1577 FAX.048-840-1579
■支社：〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原 4-1-45 新大阪八千代ビル 3F
TEL.06-4807-7737 FAX.06-4807-7727

法定福利費の内訳を明示した標準見積書の活用により、法定福利費の確保を図りましょう！